

イ 気象集誌の特別号について 現在の編集委員が特別号の編集委員となる。来年4月原稿締切次期の編集委員会を構成する。「天気」、「気

集誌」に募集要領を出す。
承認事項 小越征夫ほか5名の新入会員を承認

ここ1～2年の学会財政の見通しについて

会計委員会

学会の運営は、会費、文部省助成金および投稿料などによって賄われている。このうち会費については、会員各位のご協力により、昭和53年度の春の総会において値上げが承認され、昭和54年1月より実施され、ようやく効果が現われてきた。しかし、改訂を検討していた当時からみると、その後の公共料金や諸物価の値上がりが予想以上に大きかったことは、会員各位も実感として受け取られていることと思われる。これに対しては、理事会でも鋭意努力し会費の100%徴収、他収入の増加促進、会員数の拡大および経費節約などで対処してきているのが現状である。

一方、3年後の学会創立100周年の記念事業については、昭和53年度から年200万円の積立を行なってきたり、近く審議していただく昭和55年度予算案にも同額の積立金を盛り込み、この行事の成功を期しているところである。

このような努力にも拘らず、昭和56年ごろには下記に述べるような公共料金、諸物価の値上げ攻勢が予想される一方、退会者の漸増というきびしい情勢も懸念されている。

昭和55年12月までは会費以外の収入増を計り会費は現行通りで運営するとしても、以上のような観点から、それ以降については値上げを考慮する必要があるのではないかとと思われる。

この点については、過般開催された評議員会でも、やむを得ないだろうとのご意見をいただいたところである。

当学会の定款では、仮りに昭和56年1月から値上げの場合には、55年春の総会に提案して承認を受け同年末に前納する運びとなるので、理事会としては目下値上げの要否、値上げするとした場合の金額などについて慎重に検討中である。

会員各位には、これらの諸事情をご賢察のうえ、深いご理解ご協力を賜りたい。

記

1. 郵便料金について

葉書、封書の値上げに続いて、学会誌などの郵送に直接関係する第3種、第4種郵便物も値上げになるおそれがある。

2. 印刷製本費について

必要経費の大半を占めているこの項目は、昭和54年度に約4.6%増額になった。しかし、56年度までにはさらに数%（場合によっては10%程度）の値上げとなるおそれがある。

3. 交通費について

国鉄運賃の値上げは近くは本年4月と予定されており、私鉄などの値上げ、さらに56年度までにはそれらの再値上げも噂されている。当学会としては、気象研究所等の移転に伴う理事、各種委員の交通費が大きく影響を受けることになる。

4. 会議費について

今後、大会会場などの借上料の増加が予想される。

5. 会員数について

会員増加運動を実施したため、昭和54年8月現在で1年間に260名の純増をみた。一方、過去数年の退会会員数は年40～50名に過ぎなかったが、今後は相当数ずつ増加してくることが予想される。たとえば、気象官署の退職職員数はこの先数年は年100名ぐらいつつ増加する見込みで、この中には当学会員も相当含まれており、B会員からA会員への変更または退会希望者も漸増するのではないかと懸念される。

これに対しては、新入会員の獲得にこれまで以上に努力する必要がある。

以上